

張り紙

小野澤繁雄

くぐもって舌打ちをする大院君を「明成皇后」はしばしばもみす
しるしらぬ花のつづきに飾られて図書館は踊り場に毬栗みつつ
花畑は丸ごとの丘にブルーサルビアみのがしやすく花色葉色
逆光に近づききたる少年がふいに消えたは自転車置場か

土手下に無花果の実のみえてきて見下ろしみるは何かあたらしく
つぎつぎに組の名呼ばれ校庭は運動会行進の練習か

水を制することの大変さ改良区の碑にのこした門樋が残る

電柱のはり紙禁止（県警）は張り紙にして字の大きさに紙の小ささ
片づかぬというのみならずその庭はふくらんでいるみちに隣に

猫の名にシロを読むかな白猫の所在探している張り紙に